



八高新時代!! 君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和7年6月16日(月)

兵庫県立八鹿高等学校

校長 山本 宏治

32

令和7年度修学旅行結団式で、次の話をしました。

高校生活は「未来への滑走路」です。

皆さんは、3年間(実質2年と10ヶ月)の高校生活のうち、1年と2ヶ月あまりを過ごしてきました。まもなく高校生活という滑走路の半分を走りきるところまできています。

さて、航空機が離陸する際、滑走路の端から端まで地面を走っているかというところではありませんね。皆さんはまもなく離陸可能なトップスピードに到達して、機首を上げ大空へ向かって飛び立つ最終の段階まで来ていると言えます。

今回の修学旅行は、夢に向かって飛び立つための最終の推進力を皆さんに与えてくれる、そのような行事なのです。

どうぞ、入学以来培ってきた「気づく力」を存分に発揮しましょう。あいさつや感謝の言葉は、人に気づいていることが言葉となって表れたものです。仲間の中に、何か困っている人や、楽しめていないのかな、と見える人がいれば、その仲間を思いやる心が言葉となり、行動となって表れます。初めて出会う人々へのあいさつや感謝の言葉は、その人々の心に気づいたときに自然と出てくるものです。皆さんの「気づく力」をこれまでどおり発揮して、充実した旅にしていきましょう。

今日は「結団式」、文字どおり「旅行団を結ぶ」日なのですが、修学旅行には実に不思議な力があります。旅を終えるときには「解団式」、つまり「旅行団を解く場面」がありますね。ところが、旅行団を解いたのちにも、決してほどけることのない、固い固い結び目が残るのです。これが修学旅行なのです。高校生活って素晴らしいですよ。皆で、このことが実感できる旅にしましょう。